



「吉弥くんについていったら楽やな」
20年目を迎えた二人の原点

吉弥：でも、まだ僕はあまり喋ってないというかな。**征平さんの喋り方とかがついてくる感じが**ありましたね、もうこういうんなことを考えて、**征平さんに突っ込んだりしたらよかったんです**けど。

征平：俺は6割くらい喋ってるな。当時は。

「**聞いている人に喜んでもらえる番組を**」

征平と吉弥が共有する思い

吉弥 ここまで続くと思いましたが？
征平 20年も続くとは思わなかったな。えらいもんだや。
吉弥 ほんまんですすね。
吉平 君がほんまにスターになったからやて。NHKのドラマにも出てくれてな。それで番組も勢いがついた。ほんまにありがたいこや。
吉弥 僕は最初、平さんやテレビから来はった人かなと。この人ラジオでちゃんとやるんかなと思っただんすよ。でも実際にやってみたらこの人ラジオにぴったりやなと。むしろずつとテレビをやってほったのが不思議なくらいでした。
吉平 えへく最初は「早口や」とて散々言われ

吉弥 2007年の自分に「言かけるとしたらどういう言葉をかけますか？」
征平 2007年が思い出されへん。
吉弥 笑（この番組が始まった頃ですすよ。征平 始まった頃なんか何にも覚えてへん。吉弥 君に「最初、よろしくね」と言ったこいや。ほんまに何にも覚えてへん。米朝師匠の話はして思い出さへん。でも1回目でわかつたよ。俺は吉弥くんの後ろについていたら楽やなつて。何でも任せられると思っただ。
吉弥 2007年4月7日の初回放送を短くまとめた音源があるそうや。
征平 そんなものがあるんか。聞こう。どんなやろ。

征平 なるほど。
吉弥 やっぱり若いですね
征平 若いな。
吉弥 声が軽い。
征平 軽いし、パパッと喋る

「2007年4月7日放送 初回音源より」

(征平)吉弥君、頑張りな。一人で。全開でやってみます。クール3ヶ月持たせような。

(吉弥)そうですね。せっかくなのでやらせてもらっていただきますから。

(征平)うわ、編成部長まで来ての。ちよつと部長！土曜日休みなんやから家にいてくださいよ。

(吉弥)心配で仕方ないそうです。ABCのメンバーを歩いてこの2、3週間みんなに言わせておいてあげて下さい。

(征平)ということとは、みんなある程度オードルスを期待してるんやろか？ただ年齢がねー私は昭和19年生まれるのももく63歳でございまして。吉弥くんは今年おもうでずかですか？

(吉弥)私、46年生まれて36歳になりました。

(征平)36、若いなあ。

(吉弥)2月25日生まれ。プロデューサーの山本タツさんとも2月25日まで誕生日が一筆です。

(征平)えっ！生年月日が同じ!?

(吉弥)いや、生まれたのは小パンダさんの方が一年先輩なんです。

(征平)まあ、似たようなもんや。あーそうかな？君ら、ひょっとしてできるかわからんな小パンダ？何かやねん！怒)

(吉弥)うそ嫁はんおります！怒)

(征平)君、何を考えてるんや。できないって反響がきこえてるってんや。もう嫌やな。その新家の考え方、イヤ！

吉弥 放送で大切にしていることを教えてください。
 征平 失礼のないように。聞いている人がムカつかないように。全て神様です。
 吉弥 そうです。ほんなら、征平さんと二緒にやっていると感ずます。メルクルはる人、お手紙くれる人、FAX送ってくる人、そんな送らなくても聞いてくれて、街角で聞いているよ。二面白いよって言うてくれる人に喜んでいただけるような番組をやっていくのが肝心ですわ。
 征平 そうやな。
 吉弥 リスナーあつての番組ですからね。征平聞いてて一個番組になること、「ああいう話しとったな」って、どこかでそれを言うてもらえるような。それは常に一つプラスになることを言わねあかなと思ひますね。それがないと続かへんもんな。

「俺も一緒や」と思っただけならええ。「征平もバケとなるあつて」

吉崎 全然バケてませんよ、征平さん。今日も「お怒り体験」と言われて、「アングリーパボ」って言うなあかんのに忘れてたでして。

征平 忘れてた。

吉崎 そやけど、「お怒り体験」と言われて、私が目でグッて合図したら、それをバツと受けて、いつもより0.3秒遅かったけど……

征平 20年やつてるからなら、あれ？ **なんで俺の目を見とんねん**。あつせや！」と思ってビツと言った。

吉崎 「なんで見とんねん」やないがな。「お怒り体験」って言うたから、「アングリーパボ」って言えて台本に書いてある。

征平 台本を見たええんやけど、この番組は見よって気にならへん。全部吉崎くんがやってくれる。

吉崎 今日も反応良かったです。「アングリーパボ」出たから。僕はあと5年いけるなと思ひます。

征平 ありがとうございます。その5年が6年

7年になるように頑張るし、頼むて。
吉弥 10年後の土曜も全開！ぶっとなってますか！私は65歳。
征平 私は92歳。いへて。
吉弥 10年後で92歳！100歳まで。私もそれに負けんように。
征平 そやで。頼むて。ほんまに。
吉弥 リスナーの皆さんにメッセージを。
征平 この父親代わりの私が見えてても、息子とはとくに父親を追い越してます。でも、それを追いつけたように見えて、私を立ててくれるこの思いやり、君は偉いぞ。人間国宝の道やよろしくね。頑張つてや。
吉弥 これから皆さんのかわいがっているだけ。よくある土曜日の朝二かたが、ついでにういこやとっとなんと思つてチャネルを合わせたらもらえるような放送をやつていきなれと思います。これからはもお付き合ひいろいろお願いいたします。皆さん、これからは「土曜も全開」……
二人 よろしく、お願いします。

「息子とはとくに父親を
追い越します」
征平が語った吉弥への信頼
吉弥この番組で挑戦したいことはありま
すか。
征平はい。もう私は老いと戦います。老い
た老いたで、ある程度みんなに分かってほ
しい。またボケとなつと。だから吉弥くんが

A photograph of two men standing side-by-side in front of a repeating patterned backdrop. The backdrop features the text "ABC Radio FM93.3 / AM1008" in white and black on a red background. The man on the left is wearing a dark blue short-sleeved button-down shirt and dark trousers. The man on the right is wearing a white short-sleeved button-down shirt with a colorful polka-dot pattern and dark trousers. He is also wearing a silver watch on his left wrist. Both men are looking directly at the camera.